



～お葬儀屋さんのひとりごと～

終活の方法 ②

先月の終活の方法①の続きです。

■ 荷物の整理

終活で身の回りを整理する際、真っ先に取り掛かりやすいものが、自分の荷物の整理です。

クローゼット内に収納している服やカバン、机の上に置いてあるこまごまとした物、本棚にしまっている本など、自分の所有物は全てチェックを入れ、いらない物とっておきたい物に分けましょう。

そしていらないと判断した不用品は潔く全て処分しましょう。

粗大ゴミなら自治体へ連絡して回収してもらう、要らない物の量が多ければ専門家の方へ依頼するといった方法があります。他には、リサイクルショップへ売るという手もあります。

■ 財産

財産に関することは、終活の際にしっかり考えておかなければ、後々大きなトラブルに発展しやすくなるため、特に注意しておく必要があります。

身近な所で言うなら、銀行の口座情報や銀行用の印鑑、株をやっている人の場合は株券などが挙げられます。必ず遺された家族が財産を相続できるようにきちんと取り計らっておきましょう。

■ 医療・介護

医療・介護に関しては、ケガや病気などで自分の意思を伝えることが困難になった場合や自由に動けなくなった場合、認知症などで介護が必要になった場合を想定した準備が必要です。

例えば医療の面では、いざという時に延命治療を希望するか、重い病気だった場合、病名の告知は必要か否かなどを事前に家族へ伝えておくなどがあります。

介護の面では、自宅での介護を望むか、施設での暮らしを望むかなどの選択も事前に考えておき、施設ならどこが良いか探しておくなどがあります。

■ 遺言書の作成

遺言書は先述したエンディングノートと違い、法的拘束力があります。

自分の所有している資産を、誰に、どれくらいの割合で、相続させるのかを決め、あらかじめ遺言書に記しておくことで、基本的には書いた通りのことが実行に移されます。財産相続などの親族同士でのトラブルを避けるためにも、可能な限り遺言書は書いておいた方が無難と言えます。

■ 遺影の準備

遺影を準備する方法は、大まかに分けて2つあります。1つ目はアルバムから抜粋する方法、2つ目は写真館で撮影する方法です。終活をしている人の場合、後者の方法をとることが可能です。

こちらの方法なら、遺影のために撮影すると分かっていますので、自分の納得がいく遺影ができるまで何度でも撮りなおすことが出来ます。

■ デジタル遺品の整理

終活で身の回りの物を整理する際、手をつけるのは何も物だけとは限りません。普段から仕事や趣味などで、パソコンを使用している人は保存したままとなっているデータがあります。

そういった機械製品に疎く、パソコンを使っていない人でも、デジタルカメラや携帯電話などに保存されているデータがあるのではないのでしょうか。

それらのデジタル遺品の整理も忘れずしっかりとっておきましょう。パソコンのデータ内のパスワードがないと開けないようにしているものがあつた場合、放置しておくで家族が知らずにパソコン自体を処分してしまう可能性もあります。

